

これからの自分へ

秋 山 航

●Oxbridge 研修参加の動機

「The United Kingdom Of Great Britain and Northern Ireland」この長い国名を覚えたのは小学生の頃だった。僕は大人なら誰もが常識として知っているものだと思っていた。ところが当時の担任などに聞いても誰も知らなかった。そのことが密かに自分の英語に対する自信となった。そして、同時に「英国」が憧れの国となった。また、その正式名称が自分を英語好きにしてくれ、中学校では一番の得意教科になった。しかし、前高生となり、その英語が大きな壁となって自分の前に立ちはだかった。とても難しく、英語は得意だという密かなプライドがガタガタになりつつあった。そんな時、Oxbridge 研修というものを知った。自分の英語力や色々な人の生きざまを見て学ぶのにとってもいいチャンスだと思った。さらに、研修場所は憧れの「英国」でもあった。女王陛下の国、サッカー発祥の国そして、今は Brexit に揺れている国……。実際には当然のことながら何も知らない。知らないからこそ、この目に映るもの、この耳に入ってくるものすべて記憶にとどめたい。自分の英語が果たしてどれだけ通じるのか、英国の人たちが言っていることを理解できるのか試したい。そのような思いで参加を決意した。



●研修内容とそこでの学び

1日目・・・ついに始まった。12時間のフライトを終え、憧れの国に来たという感激とこれからの生活への希望を胸にオックスフォード大学へ向かった。しかし、現実はその甘くはなかった。正直、初めにあった寮の説明では一部しか聞き取れなかった。現地の英語に圧倒されたのである。そのショックからその日は全く英語で話しかけられなかった。「このまま何もできず終わってしまうのだろうか...」自分の無力さを思い知った。でも、そんなとき自分を支えてくれた人たちを思い出し、明日こそは必ずと思う事ができた。

2日目・・・この日は Welcome Tea があった。スコーンの美味しさには驚いた。今思えば、イギリスの食べ物で一番だったかもしれない。(全体的に思っていたより美味しかったけど。)また、午後には紅林さんの講演があった。「人生の分岐点を迎えるごとに、自分にとって難しい方に進め。」という言葉がとても印象に残った。これからの自分の行動に生かしたい。この日の主題としていた大学生との会話も戸惑う事がありつつも、勇気を持って話しかける事ができた。英会話の楽しさを身をもって感じた。



3日目・・・2日目の満足感もつかの間初歩的なミスをしてしまった。ここでもまた、自分の弱さを思い知った。いつも心のどこかで周りの人に頼っていたのだろう。その後、ケンブリッジ大学のサイエンスフェスティバルに行った。その街並みはオックスフォードのように古いものを大切に作る精神がにじみ出ている。テレビで見るような建物が沢山あり、自分がそこにいる事を信じられないほどだった。

4日目・・・色々な人の「生き様」を知ることができた日だ。その中でも特に岡本さんの講演が印象強い。何故なら初めて本物の「天才」を見た気がしたからだ。普段自分達は何気なく使っている言葉の1つ1つにも気を配っている意識が素晴らしい。気にしたこともなかった。これからは、マジックワードなどにも注意していかねばと感じさせられた。

5日目・・・オックスフォードでの最終日。研修のまとめとしてプレゼンテーションを行った。内容的にはまだまだ未熟なところがあったかもしれない。しかし、ハートフォード生などの前で堂々とした発表が出来たと思う。この経験は今まで多くの事に消極的であった自分を変えるものになるだろう。良い締めくくりになった。

6日目・・・オックスフォードに別れを告げ、ロンドンにて市内観光を行った。自然史博物館、バッキンガム宮殿、大英博物館...。このような有名どころの中でも最も感動したのはやはり...ロゼッタストーンだ。他にも資料集に載っているような作品が山のようにあった。歴史好きの自分としては最高の場所だった。



●まとめ(そして、これからの自分へ)

この研修を通して、主題であった「生き様」を学ぶのは勿論のこと、おもいがけず、自分を改めて「知る」ことができた。このことは自分にとってとても大きい。今まで自分に足りなかった積極性を完全ではないが身に付けられたと思う。今思えば積極性の無さが向上心の無さにつながりあらゆる分野で伸び悩んでいたのかもしれない。また、英語で会話する中で圧倒的な単語量の少なさを思い知った。そのため、より深い話を多くすることができなかった。悔しい。この経験を糧として日々努力したい。このように自分を変えてくれた研修と支えてくれた周りの人たちに感謝し、行動で恩返しをしていきたい。